

## 令和6年度一橋大学入学式 祝辞

いきものがかり リーダー

水野 良樹

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。また新入生のご家族の皆様、学校関係者の皆様、本日の素晴らしい日を迎えられること、心よりお喜び申し上げます。

私は2006年の春、まさに今皆さんが座っている、この兼松講堂の座席に腰を掛け、卒業式を迎えていました。2006年とは今から18年前になります。つまり、今日ここにいる新入生の皆さんの多くが、ちょうど生まれた頃か、もしくはとても小さかった頃ではないでしょうか。

Captains of Industry。

産業界のリーダーたる人材を育成する。それが一橋大学の志とされていますが、友人たちの多くがビジネスの最前線へと旅立っていく傍らで、私は音楽という、少し風変わりな職域を選びましたので、まさか18年後、そんな私が、ちょうどその頃生まれたであろう皆さんの前に立ち、祝辞を述べる機会を頂けるとは思っておりませんでした。

卒業式を終え、この兼松講堂を出るときは「自分は学内の逸れ者だ。友人たちに胸を張れるようになんとか音楽で結果を出さなければ」と、勝手に自分を鼓舞していましたので、今、この瞬間はどこか夢のようです。人生とは面白いものだと思います。皆さんの喜びの日に立ちあわせて頂けること、本当に嬉しく思っています。ありがとうございます。

さて、皆さんは今、どのような気持ちで、その席に座っていますでしょうか。

皆さんは決して容易ではない入学試験を乗り越えて、今日を迎えられました。

受験生活、大変お疲れ様でした。

この社会にあって、不自由なく教育を享受できることそのものが幸運であることは間違いありません。その前提はありつつも、皆さんは生まれてから育ち、学び、様々なことがあって、そこに座っておられるのだと思います。思い浮かべてみてください。ここに辿り着くまでの長い時間のなかに、いったいどんなことがあったのか。誰と出会い、誰と別れ、何に悩んできたのか。それはご自身しか知らない物語です。ぜひ大切にされてください。今日に至るまでの、それぞれの物語が、みなさんひとりひとりのなかにあるのだと思います。

その物語は、今日という晴れやかな日を越えて、続いていきます。

可能性が広がっています。

たしかに、皆さんの前には広大な平野のように可能性が広がってます。しかし、それは残酷な現実そのものでもあります。可能性とは正の方向にも、負の方向にも開けているものです。

ポジティブなことも、ネガティブなことも、これから先には待ち受けています。

しかも、それらの多くは予測不能で、脈絡さえありません。

喜びも、悲しみも、いつも思いもしないかたちで皆さんの前に現れるのが常です。

ただ、たしかながことがひとつあります。

これまでも、変わらなかった、たしかながことです。

わかりやすくするために、人称を“みなさん”から“あなた”へと絞って、お伝えします。

あなたの人生は、あなたにしか、与えられていません。

それはつまり、あなたが望む、望まないに限らず、

あなたの人生の主語は“あなた”のままということです。

あなたは、あなたの人生の主人公として、生きています。

これまでも、そして、これからも。

そこから、逃れることはできません。

この当然すぎる事実は、とても重要なことであり、そして、とても過酷なことです。

一橋大学では、膨大な学びが皆さんを待ち受けています。

あるいは大学生活という時間では、いくつもの出会いやいくつもの経験が皆さんを待ち受けています。そして、その大きなうねりの前では必ず、あなたという主語が、あなたという主人公が、ひとりでぼつんと立っているのです。

あなたは、これから起こるすべてに、あなた自身で向き合うしかありません。

入学式が終わり、その席を立て、今から学びを始めるのはあなたなのです。

私たちはしばしば、自分の立場や、職業や、属性や、所属するコミュニティに自分を同化させてしまいがちです。“一橋大学の学生”という人間に、あなたがなったのではありません。

これまでも続いてきたあなたの人生のなかに、今、一橋大学が登場してきてだけです。

ここを通過して、あなたは何かを得て、やがて次の場所に旅立つのです。

私は本学では社会学部に入学しました。

入学して最初の授業で、そのとき指導してくださった先生が、このような趣旨のことを教壇でおっしゃられました。おおいに要約した、20年以上も前の講義の記憶ですので、先生の正確な文言とはちょっと違うかもしれませんが、それはご容赦ください。

君たちは、神の視点には立てない。

これから人文学を、社会科学を学び、社会にはこんな問題がある、こんな論争があると、君たち自身も論じていくだろう。だが、君たちは、君たち自身も常に当事者であることを忘れてはならない。A という立場があって、それに反する B という立場がある。君たちはあたかもそれらを俯瞰して見て、客観的な視点に立って、つまりは神の視点に立って、語ってしまいがちだが、君たち自身も A から B のどこか 1 点に、その身を置いている。君たちも社会に生きている。君たちも当事者だ。それを忘れてはならない。

私が学生だった頃とは比べものにならないほど、テクノロジーは発達しました。

知識や情報を得ることは、信じられないほど容易になってしまいました。生成 AI の発達は目覚ましいです。膨大な知識や情報を、運用し、扱うことも、これまで以上に容易になりました。いったい学ぶということはどういうことなのでしょう。考えるということとは、これから、どう定義づけられていくのでしょうか。スマホをひらけば、みなさんの消費行動を把握して、それぞれの個人に適正化された情報が表示されます。SNS を開けば、一つの社会問題に対して、多くのひとが語る言葉を読むことができます。言説も、論理テクニクも、あるいは語り口までいくつも、いくつも提供されていて、みなさんがそれを内面化して、自分で用いることは、とても簡単です。

さあ、そこで、あなたという主語は、どこにあるのでしょうか。

それはあなたが考えたことでしょうか。

あなたが選んだことでしょうか。

あなたが感じたことでしょうか。

情報の海を、知識の海を、それこそ神の視点から見るとして、すべて見渡せるようになったとして、そしてそこを縦横無尽に泳げるようになったとして、その海辺で、ひとりぽつんと立っているあなたは、本当に考えているのでしょうか。本当に選んでいるのでしょうか。本当に何かを感じているのでしょうか。

あなたという主語が、あなたという主体性が、たいへんあやふやになりやすいのが、今、私たちが生きている社会なのかもしれません。

しかし、実はこれは今に始まった話ではないのではないのでしょうか。

情報社会が発達する前から、本当はずっとそうだったのではないのでしょうか。

教育は、学びは、常にそれを享受する主体を脅かすものです。

何かを知り、何かを学んだとき、あなたは、あなたでなくなるかもしれない。変化するかもしれない。これから出会う講義が、これから出会う知識が、あなたを変化させる。

もちろんその変化を望んで、皆さんはここに来ているのでしょうか。  
あなたはそれを“成長”と呼んで、この大学で果敢にも学んでいくのだと思います。  
ですが学びとは、常にあなたの主体性に挑んでくるものです。

恐れる必要はありません。  
学びに自分自身を晒し、変化に自分を晒しながら、葛藤するのです。  
様々な知識を獲得し、それを再構築し、絶えず試行錯誤を繰り返しながら、  
自分はどうかありたいのか、ゆらぐ主体をなんとか維持しながら、  
考え続け、悩み続けるその過程が、やがて揺るぎない、  
あなた固有の物語になるのだと私は思います。

わたしは歌をつくることを生業にしています。  
歌の多くは、わずか数分に満たない長さで、そこに載せられる歌詞は原稿用紙にしてせいぜい1枚か、2枚程度。そんな少ない情報のなかに、顔も名前も知らない、出会ったこともない多くのひとたちが、自分の人生そのものを重ね合わせる瞬間を何度か見てきました。

ほんの数行の歌詞のなかに、聴き手は膨大な意味を見出します。  
なぜそんなことが可能なのか。  
それは聴き手が、自分を主人公として、自分を主語として、その歌を聞くからです。

「ありがとう」も「帰りたくなかったよ」も陳腐な言葉です。実にありきたりの、どこにでもある言葉です。ですが、聞き手が、その言葉を送る相手を他ならぬ自分の胸のなかに思い浮かべたとき、帰りたい場所を思い浮かべたとき、その言葉は、どんな言葉より豊かで重い言葉になります。

おそらく、学びもそうなのではないでしょうか。  
あなたが、あなたとして、世界に向き合う。  
主体性とは、世界をひらく、かくも強靱な姿勢なのです。

人間は、秩序も物語もない、無意味なる自然の前に立って、意味を見出してきました。  
夜空を見上げ、ただランダムに散らばっているにすぎない星の光のあいだに、線を引き、星座を描き、神話を立ち上げた。ただの叫びにすぎなかった声を区切り、音節を与え、世界にちらばっているモノと照合させ、言葉をつくった。

そうやって無意味から意味を立ち上げる営みこそ、人間らしい営みなのだと私は思います。その人間らしい営みは、希望を呼び込むこともあれば、絶望を呼び込むこともありました。自分たちがつくりだした物語に、正義や秩序に心を奪われ、盲信し、過ちをおかしてきた歴史も人間にはあります。でも、何度も何度も斃れながら、かくも巨大な世界の前に立ち、いつも人間はひとりひとり、考え、語ってきたのだと、私は思います。

自分という主語で、世界の前にひとりぼつんと立って、考え、語ってきた。

今、あらためて、みなさんに問います。

あなたは、何を学びますか？何を考えますか？何を感じますか？

膨大にある知識を前に、どう立ち向かい、どう意味を見出しますか？

あなたは、どう変化するのですか？あなたはどう生きるのですか？

答えは、あなたにしか、わかりません。

今日の日まで続いてきて、そしてこの入学式が終わったあとも続いていくあなたの人生が、永く永く、すこやかで、豊かであることを祈っています。

入学、本当に、おめでとう。